

30年にわたり1万5千人もの社会的弱者を救った
日本初、日本最大の民営弱者救済施設

榊原

弱者救済所

鴉根の丘に、
幸せの村がありました。

明治32年(1899)ごろから昭和7年(1932)ごろまで、今の半田市鴉根町の丘に榊原弱者救済所がありました。敷地は約6万6千坪(約22万㎡)、そこに宿舎、武道場、礼拝施設など10棟ほどの建物。畑、牧場、果樹園があり、常に50人~100人ほどが暮らしていました。

ここで暮らすのは、貧しさのため捨てられた子ども、孤児。重病や障害があって家を出された老人、重病人。刑期を終えて出所したのに行き場のない出獄者。不幸な身の上の女性。みんな弱い人たちです。

そんな人たちが世間から嫌な目で見られず、差別や偏見を受けずに暮らせる“幸せの村”。それがこの施設で、延べ1万5千人が救われました。

主宰者は榊原龜三郎、成岩町生まれの男。若い頃は暴れん坊で侠客の道に入ったこともありました。しかし、30歳の時に心を改めると、30人もの子分たちも同じく改心させ、鴉根の丘に“新しい村”を造ったのです。

龜三郎翁は晩年、「この世に一人の孤児もいなくなり、努力しても飯が食えない人が、一人もいなくなるまで救済事業は続ける」と言いました。

こころざし半ばで彼は亡くなってしまいましたが、高く尊いその意志は、この鴉根の丘に生き続けているはずです。

跡公園

鴉根
ちびっこ
広場



大正9年建立の「記念碑」。救済所を支援した地元の名士や篤志家91の名が刻銘。金原明善、山崎延吉の名も。

♣ 鴉根史跡公園

○榊原弱者救済所のあった鴉根の丘の
 一帯は、明治初期まで、人家の全くない
 雑木林でした。

○その広大な荒地を榊原亀三郎が「新
 しい村、を造るために開墾しました。

○昭和になり、「杉治商会」「中島飛行
 機」など大企業が入り、鴉根の丘は開
 けていきました。そして、新美南吉が
 住むなど、新しい史実も生まれて、鴉
 根の歴史を構築していきます。

○戦後は入植に成功した人も増え、鴉
 根区もできました。

○このほど誕生の「榊原弱者救済所跡
 公園」には、鴉根の丘の歴史を写真入
 りで解説、展示して、「鴉根史跡公園」
 の役目も見せています。

掲示板は8基あり、公園に見やすく
 設置してあります。

♣ 弱者救済所の様子



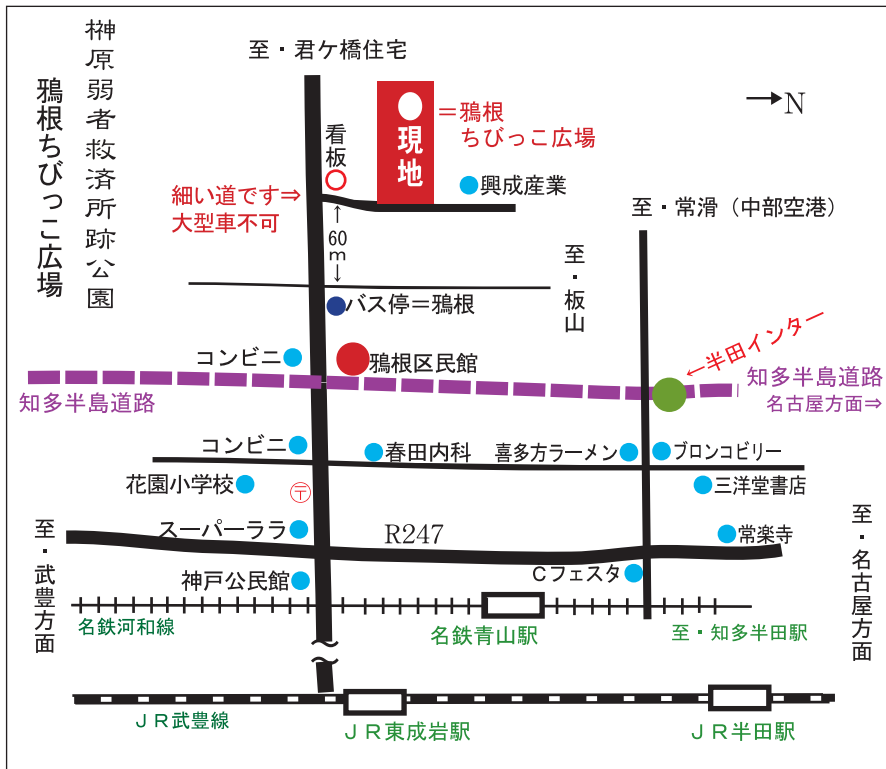
●大正中期の救済所。右の建物は
 武道場。左奥は宿舍。十棟ほどの
 建物があった。武道場は入所者の
 鍛錬の場だが、「半田警察署」の
 剣道場も兼ねていた。



●道端や橋の下に人が捨てられて
 いるのが日常の時代だった。
 救済所は、捨て子や老病者を多
 く収容。ここで成人まで育った孤
 児たちも数え切れない。

◆関連資料=①『幸せの風を求めて・改訂版』西まさる著(新
 葉館出版) ②DVD『榊原亀三郎物語』 ③絵本『いばり
 んぼうのカメ』文・西まさる 絵・スギウラフミアキ
 ◎はんだ郷土史研究会=0569-22-7219

♣ 現地案内マップ



【名古屋方面から電車をご利用の方】
 ▽「名鉄名古屋」から河和線または内海線で青山まで。特急35分、
 急行40分。
 ▽「JR名古屋」から武豊行き(直通で)東成岩まで40分。
 豊橋、岡崎方面からは、「大府」で武豊線に乗換え。
 * 名鉄青山駅より現地まで徒歩約30分、タクシーで千円まで。
 * JR東成岩駅より徒歩約35分、タクシーで千円程度。
 【知多半島道路をご利用の方】
 * インターは、「半田中央」でなく「半田」ですので、ご注意ください。
 * 現地の駐車場は数台分です。バス等は鴉根区民館にご駐車を。
 区民館より現地まで徒歩約6分ほど。

♣ 榊原弱者救済所跡保存会

半田市稲荷町2-42 鴉根区民館内

☎0569-27-7191

または、0569-27-6306 (田中)

榊原弱者救済所跡保存事業は、「半田市鴉根区」「半田保護司会」
 “はんだ郷土史研究会”“半田市”の四位が一体となり推進。
 加えて、多くの皆さまのご協力もいた
 だき、平成25年秋、市民協働事業と
 して遂行したものです。

